

視点を変えれば、 世の中は変わる。

たとえば

半分だけ水の入ったコップを見て、
もう半分しかないと思うか、
まだ半分もある、と思うか。

視点を変えれば、

世の中の見え方は変わってきます。
当たり前だと思っていたことでも、
違う視点から見つめ直してみると、
新しい発見があることがあります。

Rethinkフォーラムは、
一人では気づけない

新しい視点に気づくことで、
地域活性化のきっかけを見つける場です。

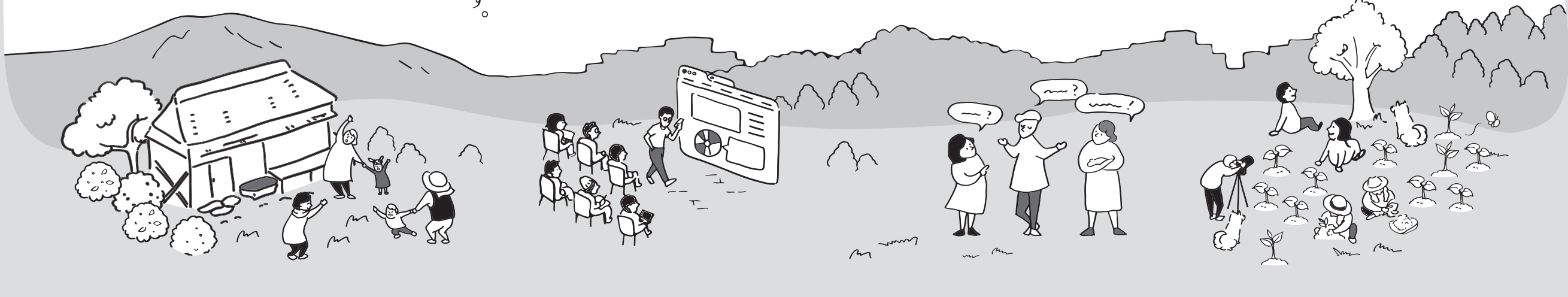
視点を変えれば、世の中が変わる。

地域が変わる。

未来を変える発見は、

意外と身近に

あるのかもしれない。



「Rethinkフォーラム～視点を変えれば世の中は変わる～」(山陰中央新報社主催、島根県、松江市など後援、Rethink PROJECT協賛)が10月16日、松江市のホテル一畑で開かれました。第1部はお笑い芸人のカンニング竹山さんが「自分らしく楽しむ視点」をテーマにトークショーを、第2部では松江市の上定昭仁市長と大手飲食店情報サイトを運営する「ぐるなび」の西原史郎執行役員、進行役のフリーアナウンサー原田笑さんが加わり、「Rethink島根～Authentic Japan“MATSUE”」をコンセプトにした観光振興～」をテーマに、語り合いました。要旨を紹介します。

ゲスト



たけやま
カンニング竹山氏 (お笑い芸人)
演題：自分らしく楽しむ視点

1971年福岡県生まれ。1992年お笑いコンビ「カンニング」を結成。キレ芸で人気を博し、その後は役者としても活躍。現在はバラエティ番組やワイドショーに出演するほか、単独ライブ「放送禁止」の開催や会員限定の動画配信「竹山ライブショー」など、さまざまなメディアで活躍中。

マイナスをプラスに変える

福岡市のご出身です。
19歳の初めまで福岡で暮らしていましたね。人見知りや仲間がいなくなるともできない一般的な少年でした。小学4年生のときに漫才ブームが起こり、目の当たりにしてその時、芸人になりたいと思ったんです。でも親に許してもらえないと思っただけで黙っていました。高校生のとき、幼なじみの2人に、「東京に行ってお笑い芸人になりたいんだ」と初めてその夢を話しました。1人は「自分もやりたい」と言ってくれました。そいつは今、福岡で芸人をやっている田中健二です。「絶対無理」と言ったのが、その後相手になる中島忠幸でした。大学浪人中、田中と2人で芸能活動を始めました。
福岡での活動は苦労されたようですね。
お笑いが仕事になるとつらかったですね。実力の世界で評価されず、テレビやラジオに出ると「つまらん」と言われたり、叱られたり。本当に落ち込み、番組をすっぽかして逃亡したんです。一度は戻ったのですが、やっぱりつらくて、また逃げた。全部で3回逃亡しました。父に「ババ、もう駄目だ。耐えられない」と言うと、父は30万円を僕に渡し、「これでママにばいばい」と言われて、福岡を離れた。
その30万円を手に、全国各地を旅して回ったんです。転機になったのは、札幌市でのご縁でした。大通公園で、座ってトウモロコシを食べていたら、外国人の宣教師に声をかけられたんです。これまでのいきさつを話したら、宣教師が僕に「東京

に行くべきだ。Dreams come true(夢はかなうよ)」って言うたんです(笑)。それで目が覚めて、芸人をやろうと思って東京に行きました。
東京での暮らしはどうでしたか。
1人で生活する中、目線を変えるきっかけがありました。バイトを終えていつも行く西荻窪の定食屋に言ったら、僕が東京にいることも知らない中島が、そこでビールを飲みながらナイターを見ていたんです。「おー、どうしたの?」となって話を聞いたら、高校を中退してアイドルの親衛隊をした後、板前の修業に入ったけど、先輩と大げんかして飛び出して東京に来た。親衛隊の時の友達を頼ろうと思ったけど会えずに、途中で暮れて定食屋でビールを飲んでいると親友の俺が入ってきた。この再会が、カンニング結成のきっかけです。
お父さんが急逝されましたか。
カンニングを組んで1年2年ぐらいのころ、僕の父が52歳でいきなり亡くなりました。実家に戻って、母と兄と姉の4人で、隠し財産を当てにして父が管理していた金庫を開けました。中から出てきたのは、兄と姉、僕が幼稚園のころから描いた絵やもらった賞状や作文、僕が福岡で芸人をしていたころの新聞記事の切り抜き、自分を撮ったビデオとか。それを見て「親不孝したな」としみじみ思い、「もう一回、東京で芸人をやらせてくれ」と家族に頼んで、東京に戻りました。
その後、芸能界での活躍が始まりましたか。
売れるまで9年かかりました。その間、親に内緒の借金を500万円もこしらえて逃げ回る生活をしていました。そこで視

点を変えて、だめな人生、マイナスなことをネタに変えて、プラスにすることができないかと思っただけです。だめだな、恥ずかしいなということを個性にしたことで、自分の人生がうまくいきました。いろいろな人に迷惑をかけた20代を無駄にできなかったということだと思っています。
Eテレで「今君電話」という番組に出演していらっしゃいます。
視聴者の悩みや秘密を直接電話で聞く番組です。出演する前に、大学の先生の講義を受けました。先生に言われたのは、人の話に耳を傾ける大切さです。人は悩みを話せば、結論がなくとも楽になります。傾聴を心掛ければハッピーになり、すごくいい生き方ができるようになりますという話を聞き、僕も視点を変えることができました。
一趣味について書いた「カンニング竹山の50歳からのひとり趣味入門」を出版されました。
三日坊主という言葉があるけど、それでいいと思います。やってみて合わなければやめればいいと思うんですよ。でなければ新しいことにチャレンジできないじゃないですか。久米宏さんは「思っている以上に、人生はあっという間」とおっしゃっています。やりたいことを身の丈に合わせてやってみるほうが、人生幸せになると思います。

Rethink島根～Authentic Japan“MATSUE”をコンセプトにした観光振興

モデレーター

パネルディスカッション出演者 カンニング竹山氏 (お笑い芸人)、上定 昭仁氏 (松江市長)、西原 史郎氏 (ぐるなび執行役員)、原田 笑氏 (フリーアナウンサー)

原田 竹山さんには本日、上定市長、西原さんと一緒に松江市内を観光していただきました。訪れた人が幸せな気持ちを感じるような、松江の観光の未来についてご意見いただければと思います。松江の魅力をごどのように感じましたか。
竹山 非常にきれいな町という印象です。これから伸びるチャンスがあるという感じがします。
上定 手前みそですが、全国・海外から訪れてもらう価値のある場所だと自負しています。観光地としての魅力を高めるポイントは、私たちが戦略的に目標を定めてチャレンジできるかという一点に尽きます。
西原 観光客を増やすには、松江に眠っている魅力、価値を磨き、なぜその価値が松江に存在するかのストーリーを伝えていくことが大切です。
上定 これまで、松江市民は謙虚で大人しいことを美德としてきましたが、これからは胸を張って魅力をアピールすることが求められます。松江が「ホンモノの日本」を実感できるユニークな目的地であることを自覚して、固有のコンテンツを磨き上げるとともに、インバウンド(訪日外国人)観光客に向けて発信していきます。
原田 心癒される時間を過ごしていただくには、宿泊というコンテンツが大きいと思います。松江には玉造や松江しんじ湖など、魅力的な温泉もありますね。

竹山 テレビ番組の収録で全国を回っていますが、松江に泊まるのは今夜が初めてです。玉造温泉には一度泊まってみようと思います。
上定 玉造温泉は、出雲国風土記にも登場する日本最古の「美肌の湯」として、特に女性の方に人気です。
西原 松江には二つの大きな温泉があり、景観にも優れています。食、温泉などの魅力をつなげ、市民の協力がいただきながら、市長をトップに情報発信していただきたいです。
上定 もちろんです。松江の魅力のひとつに「癒やし」が挙げられます。都会地で働くみなさんに「自分へのご褒美」として松江を旅行してもらい、温泉に浸かって心身ともにリフレッシュして、翌週からの英気を養うといったイメージです。厳選した地産の食材で作った、おいしい郷土料理も堪能していただきたいです。
原田 竹山さん、美保関の印象はどうでしたか。
竹山 今日初めて訪れて、美保神社の建物が立派ですばらしく、びっくりしました。島根と言えば出雲大社ですけど、美保神社もお参りしないといけない、両方を運ぼうということを観光戦略として打ち出していくのもいいと思います。
上定 美保関は、美保神社の祭神・コトシロヌンにちなんで、氏子は鶏卵・鶏卵を避けるという風習が残っています。松江は、古来からの伝統や文化が今も息づくまちなんです。
西原 観光するうえでそういうストーリーを知らないともった

ないです。観光は何を見たか、どこに行ったかだけでなく、「何を感じたか」が重要だと思います。
竹山 ゆっくりと心が落ち着き、いい意味で正しい漁村だと感じました。地元に住んでいる方々のなまりを聞いて、旅したなど実感しました。
原田 中心市街地でも魅力づくりが進んでいます。
上定 松江では「茶の湯文化」から派生して、和菓子、陶芸、漆器などの創作が盛んです。今まで表に出ることがなかった職人の「匠」の技が外から見えるよう店舗を改装してもらおうと同時に、誰でもものづくりを体験できる「職人商店街」の形成に取り組んでいます。本日訪れた漆器店もその一つです。
竹山 絵付けをするというのが最初はめんどくせーな一と思ったけど、夢になりました。完成品が後日に届くと思うといい思い出になります。
上定 「非日常」の体験ですね。
西原 私も楽しむことができました。文化に対して高い意識を持っている人々をターゲットに情報発信すれば、プラスの連鎖が生まれます。先輩方が作った文化を継承し、広げていくことが大切ですね。
上定 職人商店街をはじめとして「まち歩き」を楽しんでもらいたい、地元住民とのふれあいや思いもよらぬ魅力と出会うことにより、松江の地で「感動」が生まれることを期待しています。

